意見報告書

～with コロナ・after コロナのまちづくり活動のシンカ～

（前期：令和２年５月１日～令和３年４月 30 日）



令和３年４月

高知市市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例
第９期見守り委員会

＊「コロナ」とは新型コロナウイルス感染症およびその感染拡大状況のことです。

目　次

【本　編】

１　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

２　意見報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

３　コロナ禍におけるまちづくり活動の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・４

４　コロナがまちづくり活動に与える影響についての議論・・・・・・・・・・・６

５　意見報告に向けた協議内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８

【資料編】

Ⅰ　新型コロナウイルス感染症流行によるまちづくり活動への影響について・・・・12

Ⅱ　高知市市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例
　　見守り委員会　第９期審議過程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34

Ⅲ　高知市市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例
　　見守り委員会　第９期委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35

（参考文献）

・「新型コロナウイルスの感染拡大における非営利組織への影響に関する
　アンケート報告書」（高知県 NPO サポートチーム）
　https://www.pippikochi.or.jp/informations.cgi?new_info_id=1424（2020/10/5）
・「感染防止に配慮したつながり支援等の事例集」（厚生労働省）
　https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_12108.html（2020/10/5）
・「オンライン公民館広がる　久留米市民ら多彩なテーマで」（西日本新聞）
　https://www.nishinippon.co.jp/sp/item/n/609320/（2020/10/5）

Ⅰ　はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大によって，まちづくりを取り巻く環境は急激に変わり続けています。活動ができず，これまでの課題がさらに深刻化し，まちづくりはこれまでにない危機に直面しています。地域での会議やイベントなどほとんどの活動が，規模の縮小や中止・延期となり，三密対策や高齢者の孤独など，新しい課題への対応が必要となっています。

しかしながら，with コロナの期間は，それぞれのまちづくり活動が原点に立ち返り，活動を見直す契機となります。また with コロナの状況自体が新たな社会課題を生み出し，これに対応するための新たな取組が，after コロナの社会変革にもつながる新たなまちづくり活動を生み出すことが見えてきました。

さらには，オンラインの活用など感染リスクを低減しながらまちづくり活動を行うための新たな手法は，参加者の固定化，高齢化，担い手不足などのまちづくり活動の積年の課題を改善するとともに，行政の発信力を高めたり，まちづくり活動を多様な市民にとって，開かれた，より包摂的・水平的かつ柔軟なものにするための手法にもなり得ます。

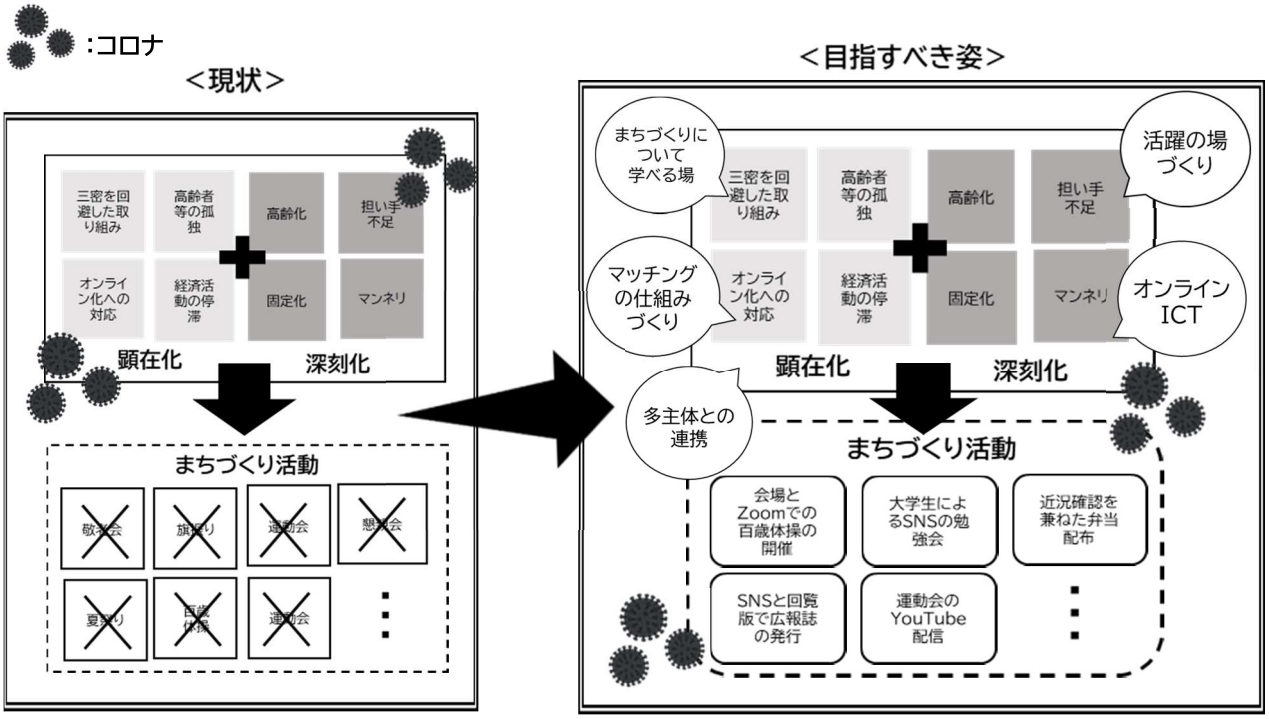
with コロナでもまちづくり活動の歩みを止めることはできません。感染拡大リスク低減のために，時に活動の場をオンラインや書面に移す，多人数で集まる機会を減らすなど，内容，頻度を変化させつつも，活動を継続することが大切です。その上で，まちづくりを新しいステージにあげていく必要があります。

そこで，今期見守り委員会では，コロナ禍におけるまちづくり活動の状況や，市民のまちづくりに関する興味・関心の変化などを分析したうえで，「with コロナ・after コロナのまちづくり」という視点から，今後必要な取組について検討し，提案としてまとめました。

コロナ以前のまちづくりに「戻る」のではなく，with コロナにおいてもまちづくり活動の歩みを止めず，次のまちづくりに「進む」ためのヒントになれば幸いです。

そして，after コロナとなった時に，より豊かで多彩なまちづくり活動が広がることを期待しています。

【コロナ禍から見えてきたまちづくり活動】



2　意見報告

～with コロナ・after コロナのまちづくり活動のシンカ（真価・伸化・深化・新化・進化）のために～

コロナによって顕在化した新たな課題や，コロナによって深刻化したこれまでの課題を改善しながら，コロナ後のまちづくりが発展し，広がっていくために，本委員会から以下のように提案します。（詳細の意見交換については，10 ページ，11 ページにまとめてあります。）

1　まちづくりに興味・関心がある人，活動している人たちが学べる場づくり

・高知市のまちづくりの根幹である，まちづくり条例や見守り委員会などについて学べる学習会やシンポジウムを開催する。
・SNS 等も活用し，興味・関心のある人がいつでもつながれる，また情報を共有・発信できる環境を整備する。

2　まちづくりに多様な人が参加できる仕組みづくり

＜オンライン・オフラインの両方をつなぐ支援＞

・会議や広報，イベントの実施等をオンラインで行うことによって，感染に対する不安を取り除きながら，事業の継続を可能とする。
・オンライン化に関する相談窓口の設置や学習会の開催などにより，オンライン対応の拡充を支援する。
・オンラインのみでなく，従前のやり方と併用することによって，多様な人の参加を促すことができる。

＜まちづくりに関心の薄い人たちが活躍できる場＞

・若い人や学生などが，オンラインや SNS 等を地域の方に教えるなど取組を行うことにより，これまでまちづくりと縁遠かった層が活躍する機会を作ることができる。
・まちづくりは，誰もが関わり，参加することができるという意識の醸成につながる。

＜新たな担い手確保のためのマッチング＞

・積年のまちづくりの課題であった新たな活動の担い手確保のための手法の 1 つとして，支援する側と支援を希望する側をつなぐ仕組みの検討。（先進事例：ファミリー・サポート・センター事業（高知市），ボランティア登録制度（社会福祉協議会）等）
・オンライン化や SNS に関する学習会の開催，買い物代行，食料・マスク等の配布と併せた地域の見守りなど，コロナによって顕在化した新たな課題への対応を可能とする。

＜多主体（企業，事業所，NPO 等）との連携＞

・まちづくりに直接関わる団体のみならず，企業や事業所等も困難な状況に立ち向かっているこのタイミングで，お互いが win-win となるような，協働によるまちづくりを進めていく必要がある。
・連携していくためのノウハウや情報の共有。（検討例：社会福祉協議会…ほおっちょけん相談窓口における相談内容の情報共有，ボランティア登録制度を活かした人材の確保等）

財源や人材の確保等について，まちづくり条例に基づく制度・組織，また過去の見守り委員会やまちづくり活動検討委員会からの提言内容をふまえること

まちづくり活動の５つのシンカ（真価・伸化・深化・新化・進化）とは



コロナ以前のまちづくり活動の良さ・強みをさらに深め，伸ばし，また新しい手法や活動を取り入れることで，コロナによって顕在化した新たな課題（三密を回避した取組・オンライン化への対応・高齢者等の孤独・経済活動の停滞等）やコロナによって深刻化したこれまでの課題（高齢化・担い手不足・固定化・マンネリ化等）を改善しながら，コロナ後のまちづくりが発展し，広がり，新しいまちづくりを創っていくこと。

（高知市市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例第９期見守り委員会より）

3　コロナ禍におけるまちづくり活動の現状

今回の意見報告書を策定するにあたり，NPO や任意団体等のコロナ禍におけるまちづくり活動の現状や課題について，また，市民のコロナ禍におけるまちづくり活動への興味・関心の変化や新たなニーズ等について，分析を行いました。

NPO や任意団体については，『新型コロナウイルスの感染拡大における非営利組織への影響に関するアンケート報告書（高知県 NPO サポートチーム 2020 年９月）』，『コロナ禍における工夫の事例調査結果（小規模多機能自治推進ネットワーク会議 2020 年７月）』，『第９期見守り委員会委員へのアンケート』より，活動の現状や課題の把握を行いました。

市民については，『高知市市民ウェブモニター制度』を活用し，コロナ禍におけるまちづくり活動への興味・関心の変化や，新たなニーズ等について把握を行いました。詳細の回答結果については，資料編に載せています。

分析から，NPO や任意団体については，多くの事業が中止・延期され，特に「子どもの健全育成」や「学術・文化・芸術・スポーツ」，「社会教育」などの分野の活動が大きく影響を受けていることがわかりました。これらは，町内会や地域内の各種団体で多く取り組まれている分野でもあります。

また感染予防策を講じながら，オンラインでのイベント実施や内部コミュニケーションに取り組んでいる団体がある一方で，オンラインの活用や支援制度・助成金などの情報収集について，十分に対応できていない団体もあり，取組に差が出ていることもわかりました。

今後，活動を継続していくには，オンライン化や ICT の活用を含む多様な活動手法の検討や，感染拡大防止に関する備品や消耗品の購入，オンライン環境整備のための経済的支援等があげられます。

市民については，普段まちづくり活動に興味はあるが，実際には参加していない人が多く，コロナ禍においても，興味・関心や，実際の参加に大きな変化は見られませんでした。

しかし，半数以上はコロナ禍においてもまちづくり活動は必要だと回答しており，「人とのつながりや交流のため」，「孤独になることを防ぐため」，「地域や経済の活性化のため」，「情報を得るため」などが理由としてあげられていました。一方で２割程度が，「感染に不安がある」や「そもそもまちづくり活動を知らない」といった理由で，コロナ禍にまちづくり活動が必要とは思わないと回答していました。

コロナ禍とコロナ収束後におけるまちづくり活動に対するニーズついては，様々な媒体を活用しての情報の発信や，ICT の活用，徹底した感染予防対策の実施，実施方法や内容の工夫などがあげられていました。

分析内容については，「現状・課題」，「対応」，「今後」の項目で，５ページの表にまとめました。

【コロナ禍におけるまちづくり活動に関する変化や課題まとめ】

※下線部分については，見守り委員からも回答を得られた内容

	NPO・任意団体	市民
現状課題	●調査結果から，**活動団体へ大きな影響が出ている**ことがわかった。 **・事業の実施への影響（会議やイベントの中止・延期）** **・自主事業の減収** **・活動場所への影響** **・組織内でのコミュニケーション** **・感染予防対策経費** ・委託金や補助金，助成金の減額　など ●活動分野別にみると**「子どもの健全育成」「学術・文化・芸術・スポーツ」「社会教育」**などが広く影響を受けていると考えられる。 **●売上や受注，利用者数や委託金の減少などが顕著**にあらわれている。 ・会費の減少 **・自主事業や工賃収入などの減収** **・活動の実施への不安　など**	●普段まちづくり活動に興味・関心はあるが，参加はしていない人が多い。 ●多くは**コロナによるまちづくり活動への興味・関心の変化はなかった**と回答しているが，積極的な変化（人とのつながりやまちづくり活動の必要性を感じたなど）や消極的な変化（**イベントへの参加を控えた**など）があったと回答した人も１割程度いた。
対応	●コロナ禍の影響を減少するための対策や工夫について，**予防を講じているところが大半である。** **●ウェブ会議システム等を使い，内部コミュニケーションやイベントなどの実施**に取り組んでおり，他団体や行政との協働も前向きに検討および実施している。 ●感染症対策の支援制度や助成金，法人経営への支援制度についての情報については，**集め方について，わからないと回答している団体が一定数いる。**	**●コロナ禍にまちづくり活動がとても必要または必要だと思っている人は半数以上**いた，一方であまり必要でないまたは全く必要でないと思っている人は２割程度だった。 ●コロナ禍にまちづくり活動が必要と思う理由としては，主に**「人とのつながりや交流のため」「（高齢者が）孤独になることを防ぐため」「地域や経済の活性化のため」「コロナ禍には関係なく必要だから」「情報を得るため」**などがあった。（以下，内容抜粋） ・一人ひとりが「まちづくり」の一員として，地域の活動に参加することは，健康面においても精神面においても必要だと感じる。 ・防災時などの為にも，関係性が希薄になりすぎるのは考えものだと思う。 ・生活が苦しくなった，仕事がうまくまわらない人が増えたりといろいろなことに協力が必要な時期だと思う。 ・見えるつながりがないと孤立してしまう可能性がある。 ・コロナ禍だからといって活動を抑える必要はないと思うから。形態を変えてやればいいと思う。 ・身近な情報を得られる場所として必要性を感じる。 ●コロナ禍にまちづくり活動が必要と思わない理由としては，主に**「感染に不安があるから」「そもそもまちづくり活動を知らない」「参加したことがないから」**などがあった。
今後	●今後活動を継続していくために**様々な支援が必要**と思われる。 **・活動方法の変化する時代へ対応した支援**（オンライン化・IT 化のサポートなど） **・「市民活動」「非営利活動」を支える支援**（支援制度の少ない活動分野や，NPO に特有な現象への支援など） **・経済的支援**（高知県や高知市などの，地域限定コロナ関連支援制度の紹介やサポートなど） **・中長期的経営改善支援**　など	●コロナ禍とコロナ収束後におけるまちづくり活動に対するニーズついては，**様々な媒体を活用してのまちづくり活動にかかわる情報の発信や ICT の活用，徹底した感染予防対策の実施（三密回避・屋外開催・人数制限・時間制限・事前予約など），実施方法や内容の工夫（時間・場所を制限せずに参加したいときに参加できるなど）**などがあった。（以下，内容抜粋） ・もっと細部にこだわったアピールが必要なのでは？あまり身近に感じない。アクションを起こす程の情報を知らない。 ・コミュニティはインターネットを介しても十分に形成できることは経験している。ただしそれはある程度同等の環境を持った人によるものなので，特に年配の方には負担が大きいと思う。公共の施設にリモート環境を整備し，貸出・サポートをしてはどうか。 ・どこも対策はしてくれていると思うので，もしコロナにかかってしまったらどうなるのか知っておくと少し安心できると思う。(例えば，PCR 検査できるのはどんな人？判定がでるまでの期間は？職場や家族はどうしたらよい？陽性になったあと入院費用や生活費はどうなる？など。) ・「めんどくささ」を取り除くことが必要だと思う。例えば，拘束時間を「～時から～時まで」と指定するのではなく，開催時間を記載したうえで気軽に参加することが出来ることを示していけば，より参加しやすくなると思う。 ・リモートとかいろいろな方法があると思う。けれど，高齢者や障がい者，子ども，それぞれの立場でも参加しやすい活動があればいいなと思う。それが意外と難しいのだと思うが。

４　コロナがまちづくり活動に与える影響についての議論

コロナの感染拡大によって，日常の生活や関わっている地域活動にどのような変化があったかについて，委員同士で意見交換を行いました。

まず日常の生活については，ソーシャルディスタンスや三密を避けた行動など，新しい生活様式が定着しています。また，コロナによって学生のアルバイトが無くなったり，仕事に影響があったとの声もありました。

まちづくりについては，ほとんどの地域で事業が中止・延期，また内容を変更しての開催となっており，令和３年度以降の事業の継続や実施について，苦慮している団体が多くあります。

しかし，これまでのまちづくり活動が一度立ち止まることで，新しい活動やつながりが生まれたり，これまでの取組の価値や本質，方法等について，再認識できる機会ともなっています。

あるいはオンラインや置き手紙など，三密を避けるための工夫をした上でまちづくりの継続に取り組まれている事例や，食事や食材の配布など，コロナによって顕在化した生活課題を解決するために，新しい取組が行われている事例もありました。

大きな影響を受けているテーマの１つに，学校や授業のあり方があげられました。多くの学校で，休校による授業時間の確保や感染拡大防止のために，運動会や音楽会，修学旅行などの行事が中止となったり，規模や内容を変更しての開催となったりしています。このことが，学校を通じたまちづくり活動にも影を落としています。しかし，学校や地域の努力により，感染拡大を避けつつ行事を継続する工夫が試みられ，その蓄積が共有されつつあります。

大学では，入学から授業がオンラインとなり，新入生は友人や講師と直接顔を合わせないまま大学生活を過ごすなど，大きな変化がありました。

一方で，オンライン化によって，これまでに無かったコミュニケーションが取れるようになったり，授業の出席率が良くなったりした例があり，コロナ禍でのコミュニケーション手段の変化・多様化が，これまで対面でのやりとりに取り残されたり，負担を感じやすかった人々が自分達にあったスタイルでコミュニケーションを行えるきっかけになっているとの意見がありました。

主な意見については，テーマ別に７ページの表にまとめました。

【コロナ禍における日常生活や地域活動の変化】

主な意見	・**学生の経済状況が悪化**している。バイト前提で入学している学生が多く，仕送りもなく困っていると聞く。リモート授業も Wi-Fi がないから受けられない。 ・無料で食材や食事を配布してくれているアテラーノ旭や弘化台を紹介している。 ・コロナの影響で**仕事が減った**。 ・コロナの影響で講演会や研修が３か月飛んでしまった。ぼちぼち始まったが**ソーシャルディスタンスをとるので気持ちが伝わらない，窓を開けるので注意力が散漫になる。** ・車中泊訓練について受け入れ側の訓練が実施でき，取材が来たり，内閣府のガイドラインにも載ったりした。 ・今回のコロナで最前線で働く医療従事者の状況を考えると胸が痛い。もし感染しても周りがどう協力・支援できるかと考えられたらいいなと思う。誹謗・中傷などもあると聞く。行政としても地域としてもどう対応していったらいいかということを考えながら三密回避を心掛けている。	・本質的なことが浮かび上がっている。**大事にしたいことは何かということがあらわになる**３か月だった。地域の飲み会などもやりたいけどできていない。 ・**地域のイベントは軒並み中止**になった。夏祭りでの収入が財源だったので，困っている。 ・人材育成のカリキュラムの講座でも今年は応募者が数名になっている。 ・**これまで協力やコミュニケーションがすごくうまくいっていたものも，コロナでその機会が取れずに**，思考停止に陥ってしまって，うまくいかなくなっている。 ・コロナでうまくいっていた大前提の考え方が変わってきているのかなと思う。**新しい何かを生み出そうとしている立場に立てば，すごくいい機会**なのかなと思っている。 ・**新しいコミュニティや行政とのパートナーシップを作っていければ**と思っている。 ・地域の各種団体が連携していた地域のまちづくりの中心であった大きな夏まつりが中止になってしまっている。**また実施できるようになっても，誰が音頭をとってまとめていけるのか心配になる。** ・**地域活動はコロナに負けている**。子どもたちも多く参加するので慎重にならざるをえない。 ・**やり方はこれまでと同じにはできないと思うが，やらないかんことはやる！**と地域ではなっている。 ・敬老会もやってもいいのではないかと個人的には思う。普段介護の仕事をしているが，介護職は基本密。介護施設にもお試しで来る人などもいるので，**行事などは（感染対策をしたうえで）やってあげたらいい**と思う。 ・夏祭りが中止になったことで，子どもたちのために花火を打ち上げることができないかといった**新しい取り組みの話が，若い PTA を中心に出てきている。** ・高圧洗浄機で小学校や保育園をきれいにしたりと，こんな時期だからこそ子どもたちに何かやってあげたいと，**若手とベテランの PTA の結束が強くなった。** ・子ども食堂も一切中止になっていたが，だんだんと復活してきており，どうやってできるだろうかと考えている。 ・コロナ関係で困っている人たちにとっては，まちづくりをしている場合ではないと言われるかもしれないが，**こんなときこそまちづくりで気持ちが豊かになれば**いいなと思う。 ・中山間や集活センターに行くと必要以上に恐れている。防災の基本は正しく恐れ正しく対策すること。「危ない・危ない」となると心が折れて何もできないことになってしまうので，ガイドラインをやさしくかみ砕きながら，**一定のことをやって進んでいきましょう**ということをやっている。 ・まちづくりファンドが令和２年度は中止になった。**限りある資源が１年延びるということ，次の３期目の必要性について考えることができるということはメリットがあった**。 ・対策によって感染のリスクは減ったが，学生の生活や大学と一緒にやっていた**地域活動が止まってしまうことによって，これまで大丈夫だった地域の方が困ってしまっている**。 ・高知大生がファイティングドッグスの中継を配信したところ，**80 歳のおじいちゃんがスマホの操作を覚えたなどプラスに働いている事例**も聞く。 ・香川県では置き手紙なら感染しないのではないかということで，**置き手紙をしながら安否確認をしていった**とも聞いている。 ・**今，活動が止まっていることによって，これまで皆さんがやってきたことの価値がわかった**。これまでのようにできること，感染対策をしてできること，またこれまでとはまったく違うやり方でできることがある。	・まだ新入生にも直接会ったことがなく，顔も見たことない。メールではとても丁寧だが，**距離感がわからない**。 ・PTA 役員もやっているが，運動会や修学旅行，音楽会などが中止になっている。**三密の配慮や授業時間の確保のためだというが何とかならないものか**。 ・**学校では密を避けることはできない**が，少しでも子どもたちができることを見つけていく。 ・授業の仕方などもこれまでとは違う。これまでの教育が悪かったのかというわけではなく，**逆に原点に戻らなくてはいけない。** ・オンラインで授業なども便利で試してみたが，アクセスが一気に集中してつながらず**逆にストレス**だった。 ・授業の動画を好きな時に見て課題をやるとなると，何のために大学に来ているのかと感じる。 ・オンラインで授業すると，これまでなかなか朝起きられない，授業に出られなかった子の出席率が良くなったり，対面が苦手な学生がオンラインではすごく勉強するようになったなど**ポジティブな一面もある。**

5　意見報告に向けた協議内容

コロナ禍におけるまちづくり活動について現状分析を行ったうえで，「まちづくり活動がコロナの苦境を乗り越えるために何が必要か」と「with コロナ・after コロナでのまちづくり活動の新しい姿」について意見交換を行いました。

出された意見やアイデアについては，「既存活動の継続」と「新しいビジョン・活動づくり」，また「既存のチャンネル」「＋オンライン（ハイブリッド化）」の項目で整理し，以下にカテゴリーごとの概要をまとめました。詳細の意見については，９ページの表にまとめました。

さらに，そこで出た意見を基に，パートナーシップの視点から，まちづくり活動における下記４つの領域についてどのような制度や取組み，支援等が必要かについて検討を行いました。詳細の内容については，10 ページ，11 ページにまとめました。

＜コロナ禍でのまちづくり活動の継続＞

(a)既存活動の継続＋既存のチャンネル

これまで単独で行っていたことを，地域内や行政内，また地域と行政間で連携・協力し，感染防止対策を講じながら事業の継続を行っていくことが必要

＜コロナ禍でのまちづくり活動のシンカ（真価・伸化・深化・新化・進化）＞

(b)新しいビジョン・活動づくり＋既存のチャンネル

これまでの活動内容を見直すとともに，コロナによって出てきた新たな課題･ニーズに対応する取組が必要

(c)新しいビジョン・活動づくり＋オンライン（ハイブリッド化）

従来の手法とオンライン等を併用することによって，まちづくりに関わる選択肢･参加スタイルの多様化を進め，新たな担い手の確保も含めた，誰もが参加しやすい新しい取組を展開していくことが必要

(d)既存活動の継続＋オンライン（ハイブリッド化）

オンラインや SNS 等を活用した情報共有・発信やイベントの実施等により，これまでの事業の継続を図っていくことが必要

【with コロナ・after コロナのまちづくり活動のシンカ（真価・伸化・深化・新化・進化）】

既存のチャンネル　(b)

＋オンライン（ハイブリッド化）　(c)

with/after コロナの新しいビジョン

新しいビジョン・活動づくり

- **行政の仕事の整理**→浮いた人・時間を地域活動へ
- **まちづくりは止めないという考えのもと実施するための工夫を！**
- →実施の判断には行政を入れない方がいい
- **あかるいまちでの市長とのコラボ**
- **事業の見直し**（やるべきこと・やらなくていいことの整理、優先順位付け）
- →事業をやめることのデメリットとコロナ感染のリスクを比較
- **今まで単体でやっていたことを連携して実施**

- **オンライン公民館**
- →オンラインの準備は大変
- **情報発信制度の改革**
- →Zoom お茶会（情報が柔らかく入ってくるように）
- **開かれた情報共有の仕組み**

with/after コロナの新しいニーズ対応・活動

- **買い物代行**
- **有償ボランティアグループの結成**（例：シルバー・ファミサポ）
- **スーパーなどに掲示板を設置**（広報誌やお知らせ）
- ←地域のイベントカレンダー作成
- **マスク配布訪問**
- **食料宅配による見守り**
- →移動販売車を地域に←見守りにもなる

- **高齢者向け ICT 教室**
- ←することによるメリットあれば
- →ガラケー廃止・スマホ推奨
- **参加スタイル（選択肢）の多様化**
- →できる人だけでなく一般の方（母親などの子育て世代など）も参加しやすい工夫が必要
- →ニーズによって参加方法を選べる（オンライン・オフライン、例：サテライト会場の設置など）

既存活動の継続

- **行政の横ぐし（庁内の横の連携）**
- **学校と地域との連携**（PTA や若い人材の掘り起こし）
- ←温度差・距離感がある
- →アイデアが形になった成功体験を通じて
- **書面表決**
- **・（利用・貸出等の）基準の設定**（行政）
- **・地域独自の基準の設定**（地域、人口や特性に応じて）
- ←責任の所在の明確化

- **・Zoom 総会**
- **・YouTube 配信**
- **LINE を使った情報共有**
- ←１人でもわかっていれば大丈夫

(a)　(d)

■必要だと思われる制度や取組み，支援等について

（出た主な意見）

1　まちづくりに興味・関心がある人，活動している人たちが学べる場づくり

・今活動をしている人やまちづくりに関心がある人たちがまちづくり条例のことや，この条例が何のためにできたのかなど，**理念やビジョンを学べる場が必要**では。

・with コロナ・after コロナのまちづくりのヒントにしてもらうように，見守り委員会での検討内容の発表を行う（対面で開催・オンラインで開催）。

・今回の意見報告の内容は，市だけでなく，活動団体に向けた内容にもなるので，市からの広報だけでなく，シンポジウム的に開催するのもありでは。

2　まちづくりに多様な人が参加できる仕組みづくり

＜オンライン・オフラインの両方をつなぐ支援＞

・LINE と壁新聞・回覧板など，**ハイブリットでの情報提供**をする仕組みづくりのために今ある制度を何か活用できないか。これをする仕組みではなく，こういった**仕組みづくりをサポート・後押しするためのもの**が何かないか。

・なかなかあり得ないと思うが，高知市全体のグループ LINE をつくるとか。

・まちづくりに興味・関心のある人が入れるグループ LINE とかならあるかもしれない。

・LINE には相手が誰かわからないまま，匿名でもやりとりができるオープンチャットという機能がある。デマなどの課題はあるが，そういうものもちゃんと仕組みや規約をつくったうえで，**活動情報をみんなで共有する**ようなことをできるのでは。

・まだ**まちづくりが一部の人のものというところがある**ので，まずはそこをクリアしないといけないと思う。まちづくり条例の存在すら知らない人がほとんど。

・まちづくり条例に関することを情報提供するグループ LINE というものを作ってもいいのかもしれない。登録者を増やすのは難しいかもしれないが，例えばまちづくりファンドの関係団体さんに QR コードを配布し，登録していってもらうということなどはできるかも。

・市民活動サポートセンターに協力してもらい，**地域でオンラインを使いたい人たちのためのサポートデスク**となってもらうのはどうか。

→そのためには**サポートセンターの人員ももっと増やすなど見直しが必要**。新しいニーズ・新しい課題も増えているので，これを機に変わっていくということが必要。

・例えば，**まちづくりファンドの募集・参加，聴衆などオンラインでも可能にする**など。

・見守り条例が関わる制度にはデジタルダイバーシティ・デジタルバリアフリーというような，**関わり方の多様さ**を組み込んでいくことが大事では。

＜まちづくりに関心の薄い人たちが活躍できる場＞

・若い人や学生たちはまちづくりに対して縁遠く，自分たちとは関係ない，何ができるか分からないと考えがち。

・Zoom や LINE などを地域の人に教える機会等あれば，どこか違う世界の人と感じていた地域のおじいちゃん・おばあちゃんを知るきっかけになるのかもしれない。

・例えば**オンラインや SNS を教える仕組みが，これまでまちづくりに関わってこなかった層が重なるきっかけに使えないか**。高知大の防災すけっと隊では，下知でスマホの使い方講座をやっており，学生自身も楽しんでいる。**学生たちも，そういう経験によって地域を知っていったり，気にしだしたりする。**

・誰もがまちづくりに関わりがあるが，一部の特別な人がやっているという意識がある。

＜新たな担い手確保のためのマッチング＞

・地域活動だから地コミ（市役所）が入らないとだめというのはないと思うが，市が関われる範囲的にこういった制度をつくるとしたらどういうことが考えられるか。

・**コロナで困っている人を支える仕組みをつくる**ことに，**まちづくりファンドや企業を重ね合わせていく，もしくは社協など関係団体と連携**していくことができるのでは。

・まちづくりファンドの活動としてあくまでマッチングの仕組みだけつくり，直接のやりとりは利用者が直接とかはどうか。あるいは**企業等からスポンサーを募る**など。

→まちづくりファンドでは直接人件費を助成金にあてることはできない。報償費なら可。

・市社協等ですでに同じような事業を行っていないか確認が必要では。

＜多主体（企業，事業所，NPO 等）との連携＞

・南国市ではタクシー業者と南国市商工会が連携し，「なんこく無料出前タクシー」を実施している。（コロナ禍で打撃を受けた地元飲食店とタクシー会社を応援しようと始まった。前日 16 時までに 2,000 円以上の料理を注文すれば，注文者に無料で配達してくれる。市商工会からタクシー会社に配達料金が支払われる仕組み。３社のタクシー会社と第一生命が協賛し，県補助金も受け事業費に充てている。南国市内限定。事業費がなくなり次第終了予定。）

・高知市では，助成金を受けながら「新型コロナウイルスに負けないまちづくり」として，地域の子どもらに無償で弁当を届けたり，お茶を飲みながら悩みや不安を話す場を設けている NPO 団体がある。

資料編

Ⅰ　新型コロナウイルス感染症流行によるまちづくり活動への影響について・・12

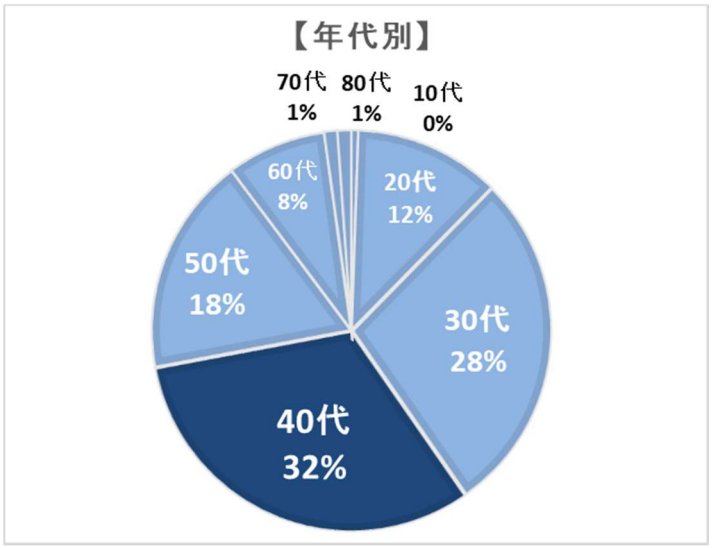
Ⅱ　高知市市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例
　　見守り委員会　第９期審議過程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34

Ⅲ　高知市市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例
　　見守り委員会　第９期委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35

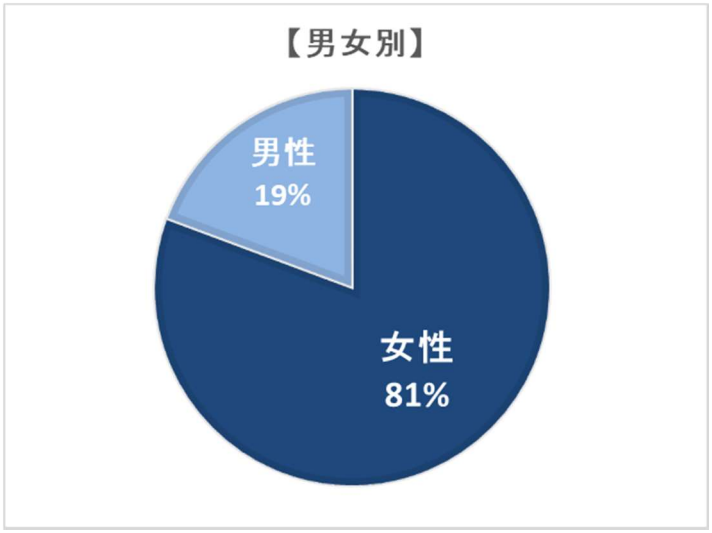
Ⅰ　新型コロナウイルス感染症流行によるまちづくり活動への影響について

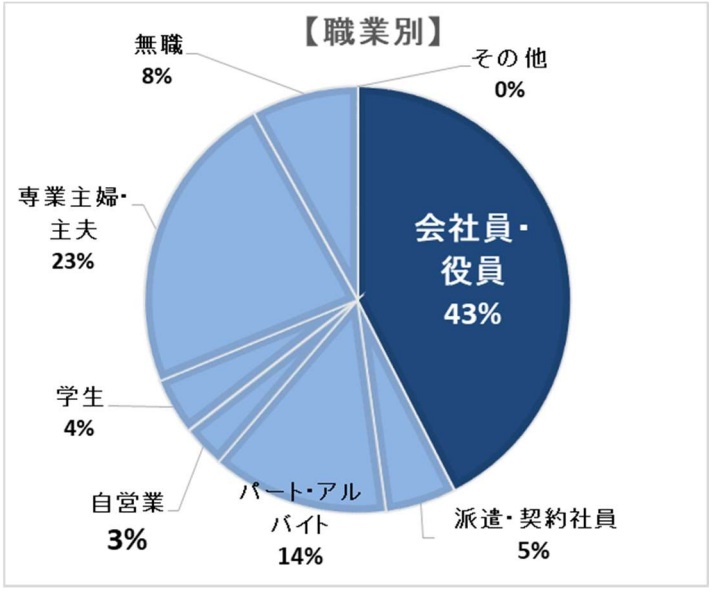
高知市市民ウェブモニター制度を活用し，コロナ禍におけるまちづくり活動への興味・関心の変化や，新たなニーズ等について，一般市民を対象に調査を行った。（2020 年９月実施・回答者 186 名）以下は，その内容をまとめたもの。

（回答者属性）



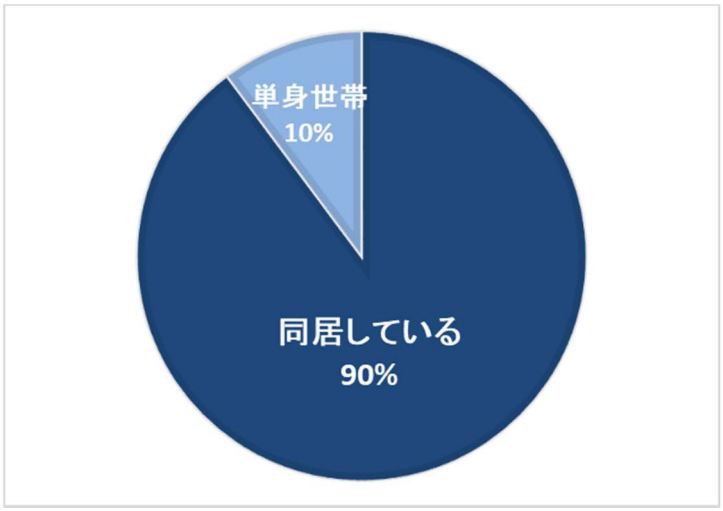
40 代が最も多く，次いで 30 代，50 代となっている。



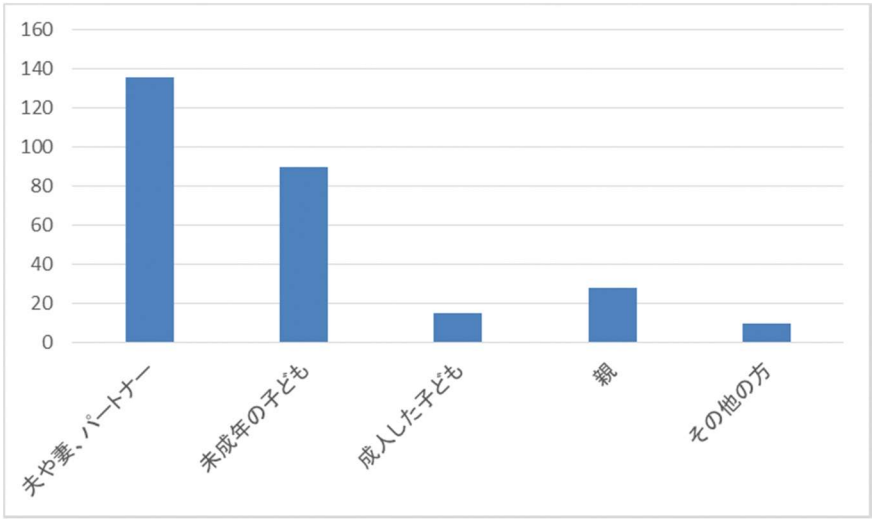


「会社員・役員」が最も多く，次いで「専業主婦・主夫」，「パート・アルバイト」となっている。

Q１ 同居している人はいますか？

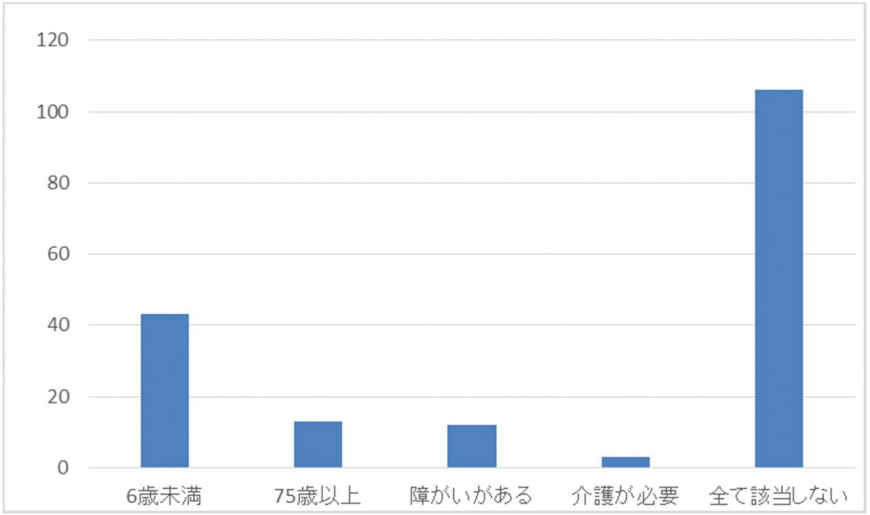


Q２ 同居している方にあてはまるものをすべて選んでください。（複数回答）



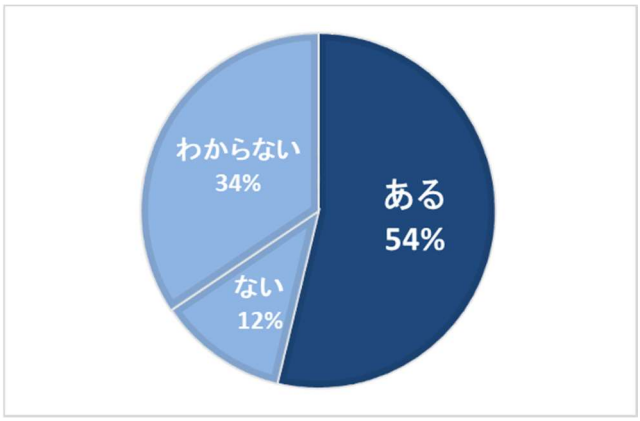
回答	計	回答者の割合（%）
夫や妻，パートナー	136	73.1
未成年の子ども	90	48.4
成人した子ども	15	8.1
親	28	15.1
その他の方	10	5.4

Q３ 同居している方にあてはまるものをすべて選んでください。（複数回答）

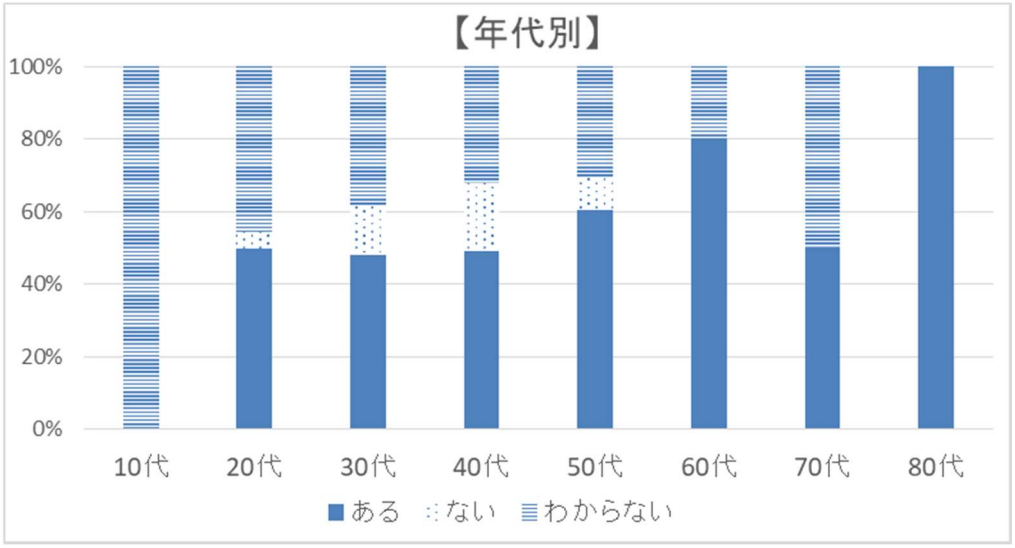


回答	計	回答者の割合(%)
6 歳未満	43	23.1
75 歳以上	13	7.0
障がいがある	12	6.5
介護が必要	3	1.6
全て該当しない	106	57.0

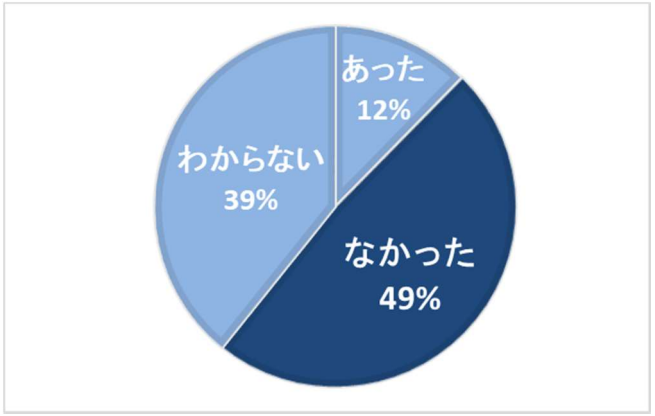
Q4 「まちづくり活動」に興味・関心がありますか。



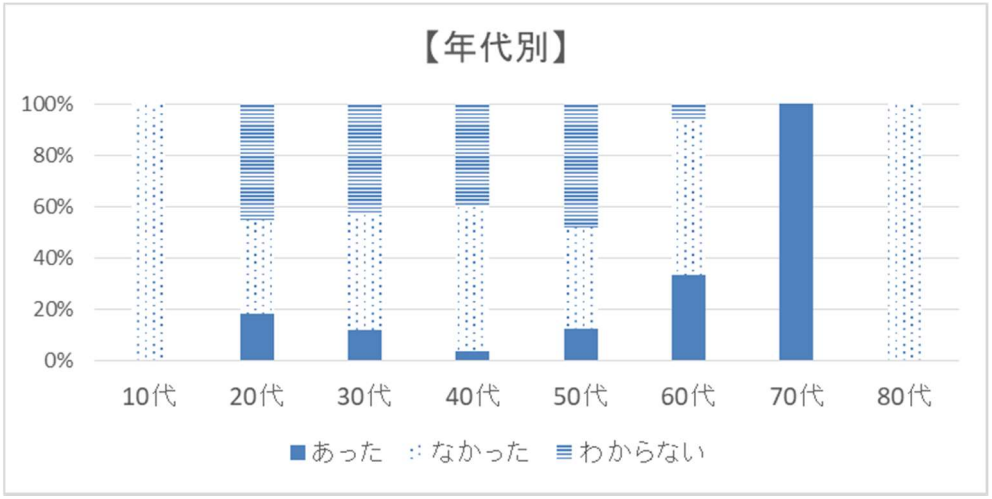
半数以上が「興味・関心がある」と回答している。



Q5 新型コロナウイルス感染症の流行により「まちづくり活動」への興味・関心に変化はありましたか。



約半数の人が「興味・関心に変化はなかった」と回答している。



Q6 （Q5で「あった」と選択した方について）その変化はどのようなものですか。

(積極的な変化)

・防災関連。この様な時何かあったら，地域として準備の必要があるのではないかと思った。

・**地域のつながりの大事さを改めて感じた**。

・誰かがやらなきゃと思いつつ行動に移せなかったが，コロナ禍で「自分の順番になったんだ」と強く思うようになり，行動を始めた。

・必要性をより強く感じた。

・**周りの人との交流の大切さを感じた**。

・**地域の自助共助の必要性を感じた**。

・どのように活動しているのか興味が強くなった。

・より一層人の為にと思った。

・新型コロナウイルスの対応を政府任せだけで無く，家庭，地域で考えなくてはいけないと思った。

・ニュースを見るようになった。

・どのようにまちが動いているか詳しく知りたくなった。

・仕事や生活に関する考え方がコロナでとても変わったから。

・**新しいまちづくりへの考え方。**

（消極的な変化）

・**参加を控えるようになった**。

・人が集まれなくなって，参加しにくくなった。

・**興味はあったが今はコロナが怖いし，生活が不安定になった**ので落ち着いたらゆっくり考えたい。

・関心が少なくなった。

・町内会総会は中止。

・あまり活動に参加しない様にした。

・感染を恐れて消極的になった。

・何かに参加しようと思ったが止めた。

（その他）

・コミュニケーション方法の変化が及ぼす経済活動への影響。

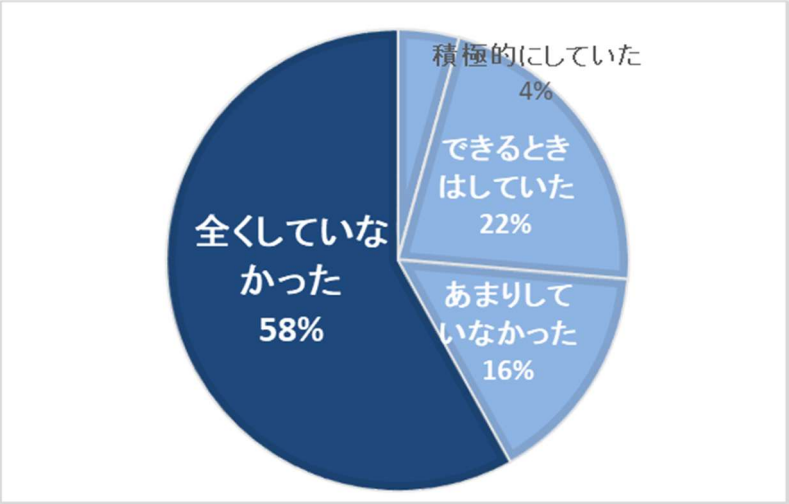
・地域住民がどのようにコロナ対策をすべきか解りやすく教えていくか。特に高齢者が多い地区は対策が重要であるため。

・毎日が忙しすぎてそれどころではない。

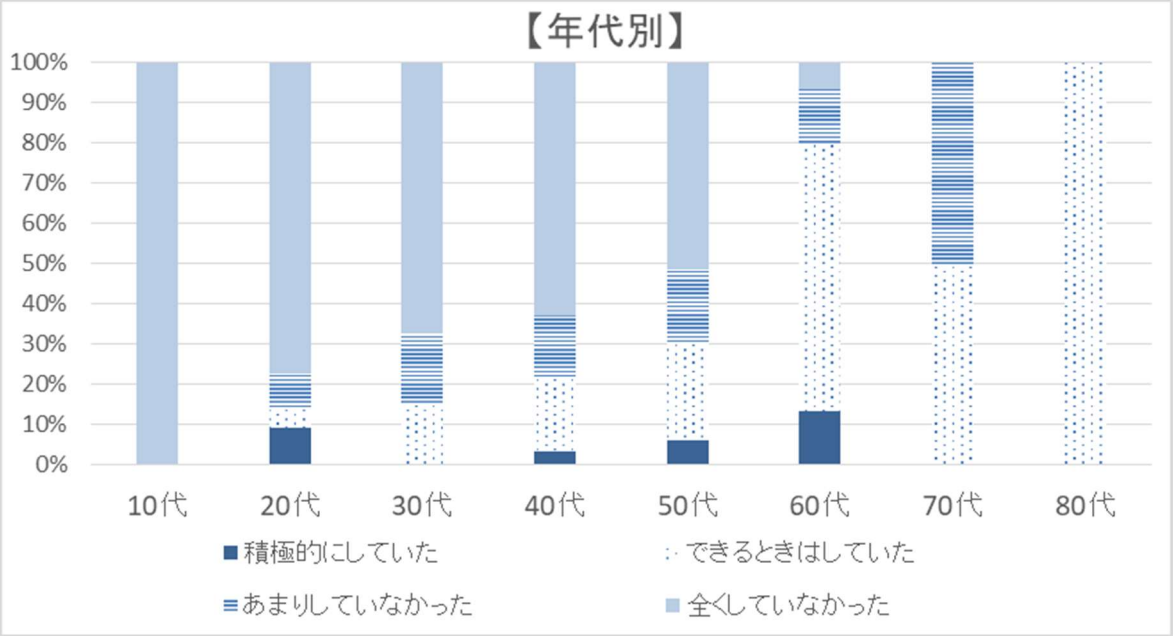
・ない。

・外出自粛により，家族以外の人との接触が激減し，**孤立状態になることで様々な発見が遅れてしまう事に危機感を感じた**。

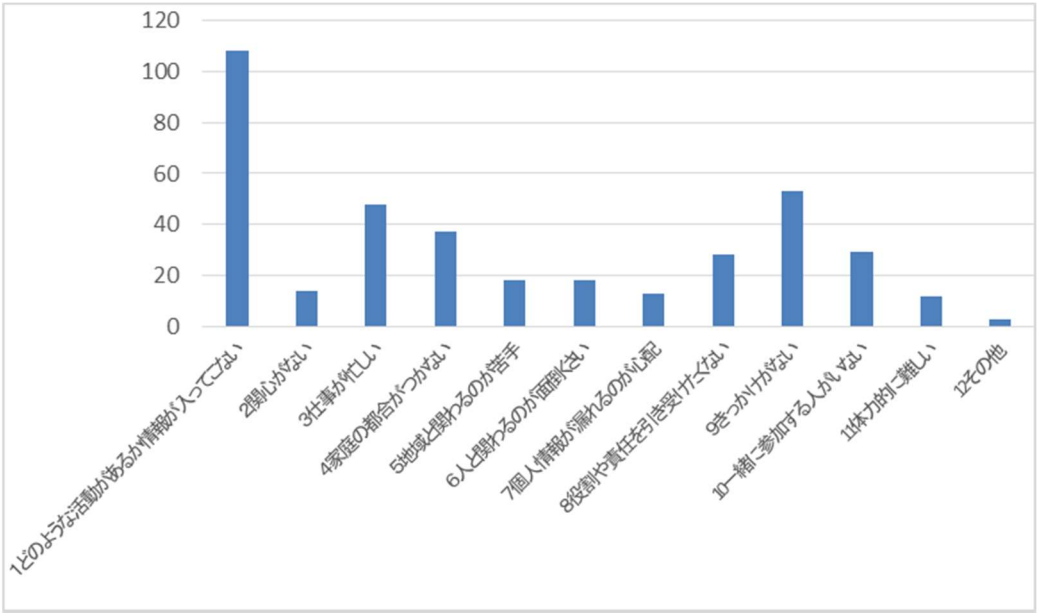
Q7 普段「まちづくり活動」に参加していましたか。



７割以上の人が「あまりしていなかった」「全くしていなかった」と回答している。

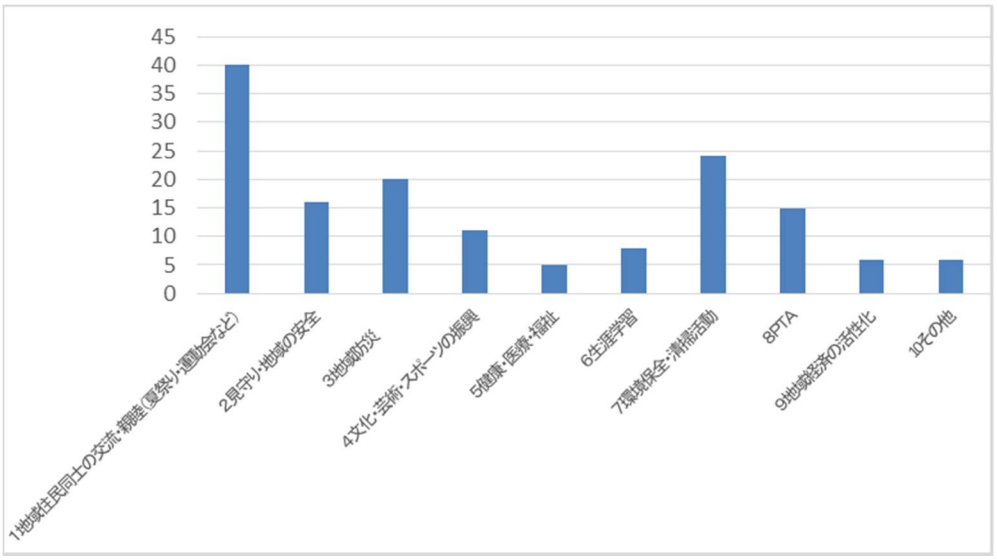


Q8 あまり（全く）参加していなかった理由についてあてはまるものをすべて選んでください（複数回答）。



回答	計	回答者の割合(%)
1	108	58.1
2	14	7.5
3	48	25.8
4	37	19.9
5	18	9.7
6	18	9.7
7	13	7.0
8	28	15.1
9	53	28.5
10	29	15.6
11	12	6.5
12	3	1.6

Q9　どのような活動に参加していましたか。あてはまるものをすべて選んでください。（複数回答）



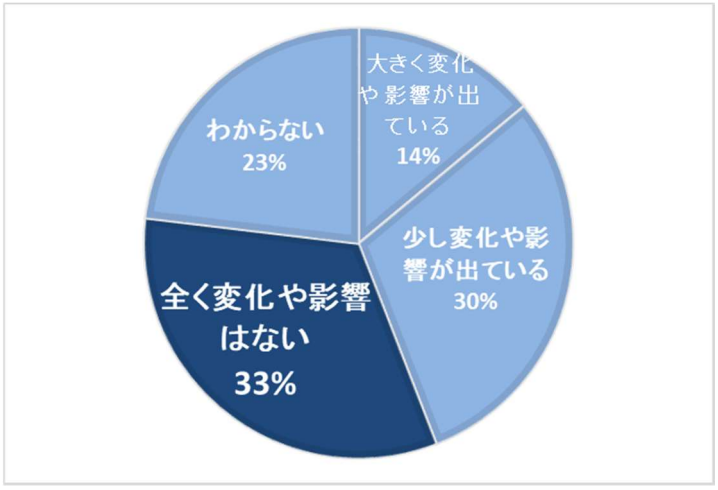
回答	計	回答者の割合(%)
1	40	21.5
2	16	8.6
3	20	10.8
4	11	5.9
5	5	2.7
6	8	4.3
7	24	12.9
8	15	8.1
9	6	3.2
10	6	3.2

（その他の内容）

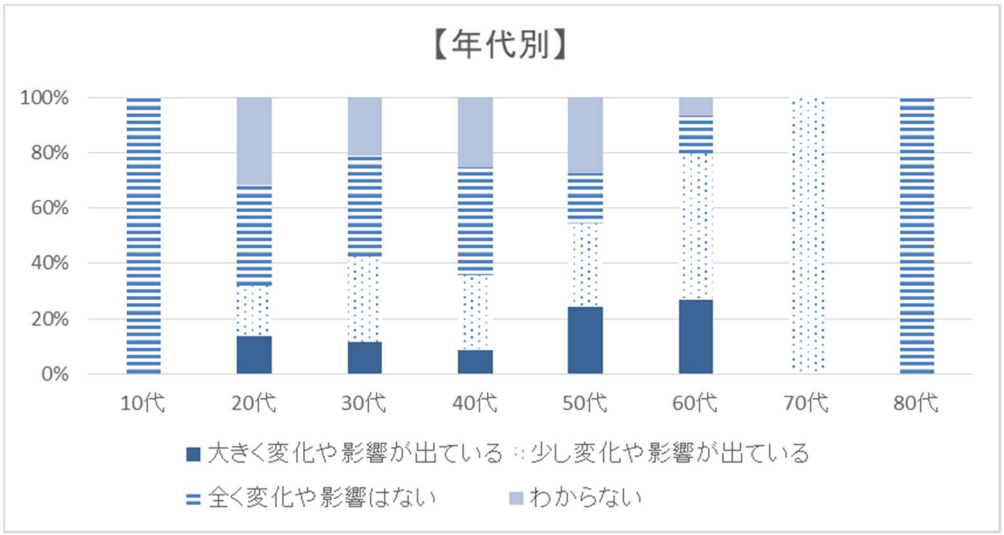
・ボランティア活動（20 代）　・動物（40 代）　・研究（60 代）　・河川清掃（40 代）

・図書館利用者へのボランティア（50 代）

Q10　新型コロナウイルス感染症の流行によって「まちづくり活動」への参加や地域での人とのつながり・コミュニケーションに変化や影響がありましたか。



・半数近くの人が「大きく変化や影響が出ている」「少し変化や影響が出ている」と回答している。
・一方で，約３割の人が「全く変化や影響はなかった」と回答している。



Q11　その変化や影響は，具体的にどのようなものですか。

【イベントや会議の中止・延期（50）】

（内容）

・清掃活動，総会，役員会，体操教室，研修，運動会，その他イベントなど。

・イベントが中止になったり，清掃活動が中止になったりして，人との接触機会も減ったが，公園など雑草が多くなった。

・会議の中止による議論不足。

【参加や交流，外出の自粛・減少（30）】

（内容）

・お店も早く閉まっていたので，買い物へ行く機会も減った。それにつれて，**外での食事やお茶を飲む機会もほとんど無くなった**。自宅を出る際にはいつも飲んでいる飲み物を持って出ることが多くなった。

・医療従事者なので今は色々我慢している。

・高齢者への声掛けを含めた近所付き合いを無くした。

・子どもに持病があるので，うつったら大変と**人と関わる機会を必要最低限に減らすようになった**。

・子どもを連れてイベントなどに参加していたが，コロナ感染予防のため，参加を見送った。

・集まりのなかで，会食など誘い辛くなった。また，食べ物などのお土産を渡すことに気が引けるようになった。

・配偶者以外との会食やイベント参加，県外への外出を止めた。

・**地域のコミュニケーションが薄くなっている**。

【オンライン関係（５）】

・ズーム会議，遠隔での開催。

【新しい生活様式への対応（６）】

・時間を短くし，三密を回避しつつ電話，メールでの対応を多く心掛けた。

・式典は縮小，**総会などは資料配布のみ**。

・活動の形態が変わった。

・人と接する時，ソーシャルディスタンスを意識するようになった。

・再開後には県内の観光や屋外のイベントなど感染防止の対策を取りながら家族で出かけるようにしていた。

【その他】

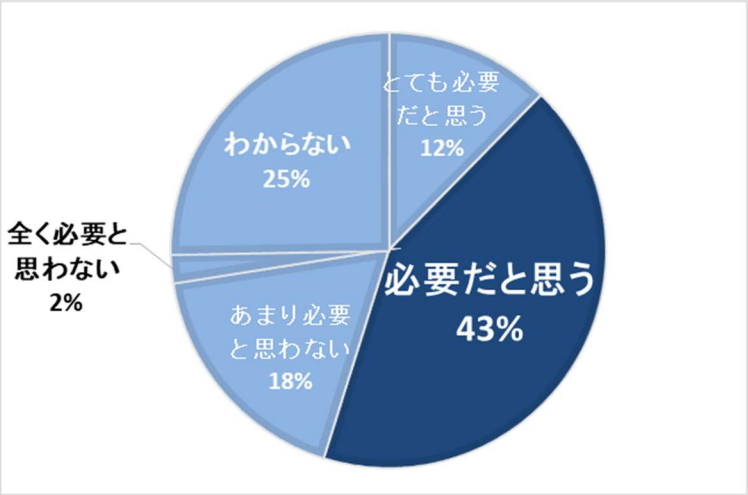
・活動停滞。

・自分自身の仕事が減り生活にゆとりが無くなった。

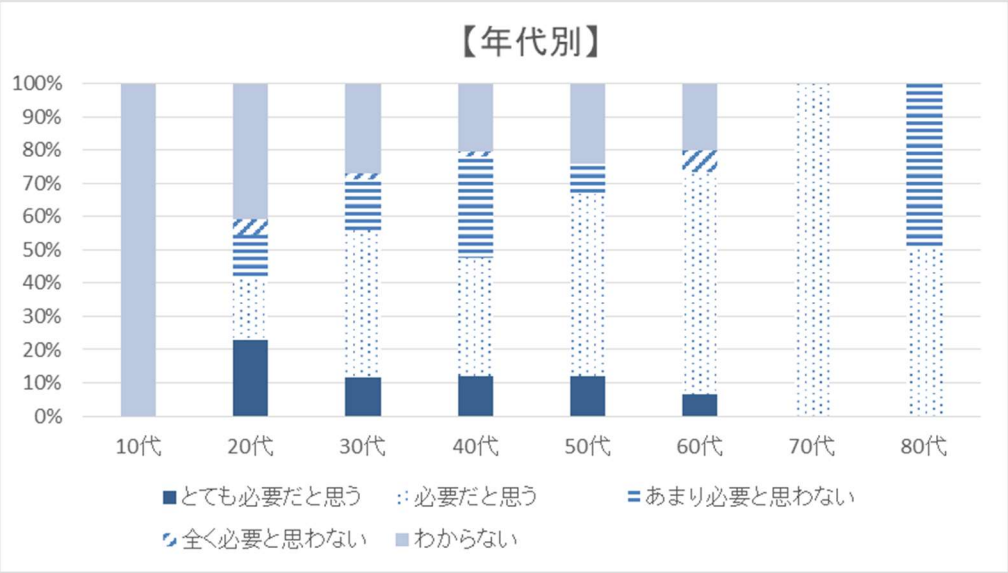
・人が集まらない。

・**地域の方が手作りマスクをくださった**。

Q12　コロナ禍においてまちづくり活動は必要だと思いますか。



・半数以上の人が「とても必要だと思う」「必要だと思う」と回答している。
・一方で２割の人が「あまり必要と思わない」「全く必要と思わない」と回答している。



Q13　Q12 と思った理由を教えてください。

【とても必要だと思う】

（つながり）

・**コミュニティや人とのつながりが希薄になってしまう**から。一人ひとりが「まちづくり」の一員として，地域の活動に参加することは，健康面においても精神面においても必要だと感じる。

・人とのつながりが大切だから。

・人と人のつながりが元気の源なので。

・やはり結束が大事だと思う。

・**地域のつながりを大切にすることで心の安定につながる**。

（地域・経済の活性化）

・**地域活性が減退していると感じた**から。

・衰退させることなく活性化するすべを模索する事が大事に思う。

・無いと酷くなる。

・以前のままでは，必ず衰退するから。

・それがどんな活動なのかわからないが，高知が今まで以上に閑散としているのは，なんとなく聞いているし，実際,３月から私たち家族は街にでていない。なんとなく拭えない不安を抱えたまま生活している感じなので，

安心・安全に過ごせるようなまちづくり活動であれば必要不可欠だと思う。

・高知に限らず落ち込んだ経済の活性化が必要だから。

・高知の飲食店経営が赤字。

・生活が苦しくなったり，仕事がうまくまわらない人が増えたりと，**いろいろなことに協力が必要な時期だと思うから。**

（孤独対策）

・なにも無くなると，孤独になり健康寿命が短くなりそう。

・見えるつながりがないと孤立してしまう可能性がある。

・**独居の住民の安否確認**

（その他）

・一人一人の意識が変わりつつあるから。

・何もしないのはどうかと思うから。

・コロナは風邪，インフルと何ら変わらない。

・**こんな時だからこそ，対策を徹底した上で活動を継続するべきだと思う。**

・人口減少のなか，**新しいカタチを考えないと。**

・市民一人一人が感染予防行動をとっていくためには周囲の助力が必要だと思うから。

・情報のやり取りが，大事かと思った。

【必要だと思う】

（つながり・交流）

・会うことに気兼ねして，人と人の関わりが少なくなっているような気がする。

・防災時などの為にも，関係性が希薄になりすぎるのは考えものだと思う。

・祭りもイベントもなくなって子どもがつまらない。

・人との交流が無くなって，精神，身体とも不活発になる。

・人と人の交流が制限されているから。

・地域の方と寄り添いながらお年寄りや子どもたちにとってよりよいまちにしたいと思った。

・**地域の方と交流があれば，体調が悪くて買い物に行けないときなど助けてもらえるのでは**。

・地域住民の関わり合い。

・人のつながりが希薄になる。

・何かしらの人との関わりは社会において必要だから。

・気軽に人と会ったら出来ない状況だからこそ，つながりは必要。

・近所の付き合いは必要だと思うからです。

・近所の方との交流は大事だと思うから。

・地域連携は重要。

・**人とのコミュニケーションの機会や顔を合わせる機会は必要だし，防災的にも役立つ**と思うから。

・人との関わりの中でそれぞれに出来る事を考えて支え合う事が大事だと思う。

・人との関わりは必要だから。

・地域のコミュニケーションとして必要だと思う。

（助け合い・孤独対策）

・お互いの助け合いが必要だと思う。そのためにも何らかの形で活動が必要。**特に高齢者に対する呼びかけが必要**だと思う。

・コロナ陽性で自宅待機になった場合，一人暮らしの高齢者への地域での支援が必要だと思う。

・孤独になることが多いから。

・孤独になる人が出てきそうだから。

・孤独化，孤立化を招かないよう注意が必要。

・孤立する人が出てきやすいから。

・孤立する人が出るから。

・孤立は良くないから。

・どこに孤立している人がいるかわからないので。

・高齢化対策にもなる。

・こんな時こそ助け合い，困っている人の早期発見につとめなくてはいけない。正しい感染対策を発信する必要がある。

・生活に困るようになった人が多くなった。

・感染予防を徹底しながら**お互いの安否確認やつながりを実感できるような活動を通じて孤立や気持の安定をはかることが必要**と思う。

・助け合い精神を育むため。

・自分たちの街は自分たちで守る気持ちが必要だと感じるから。

・コロナ渦でも，災害時 etc.の住民同士の助け合いは，一層必要だと思う。

（まちづくりの必要性）

・**コロナ禍でも，そうでなくても，より良い生活を送るために必要**。

・コロナに怯えていたら，何もできないから。

・コロナに負けてはいけない。

・コロナ禍でも出来ることはしていかないと。

・コロナ禍でも町はあり社会は存在するから。

・コロナ禍においても生活は続けていかなければいけないため。

・**コロナ禍だからこそ必要なものもあると思う**から。

・何かしらの対策は必要だと思うので。

・コロナ禍であって，尚さらまちづくり活動の必要性があると思ったから。

・**コロナ禍の現状に即したまちづくりを考えていく必要がある**と思う。

・コロナ禍だからといって活動を抑える必要はないと思うから。形態を変えてやればいいと思う。

・どんな状況でも必要なことがある。

・**まちづくりを止めてはいけない**。

・まちづくり活動は，休まず続けるべきだと思うから。

・**いま活動を止めてしまうと，また再開するのにエネルギーがいる**ので。

・何もしないでは社会が良い方向に進まないから。

・活動していないのは問題がある，過度にしすぎるのもそれに反発するものが増える。

・住みやすい環境づくりにはある程度必要だと思うので形を変えて出来たらいいと思う。
・出来ることはあると思うから。
・人とつながりにくくなる今こそまちづくり活動が必要だと思う。
・清掃活動などは，まちづくりに必須なものだと思うから。
・其れを続ける事は大切な事だと思うから。
・コロナの早期終息の見通しが立たない現状で，全ての取組を中止とするのではなく「住みやすい環境作り」のためにも，屋外で行う一斉清掃などはマスクをして実施しても良いと思う。
・コロナに関係なく，必要だから。（２）
・必要だから。
・文化活動は必要だと思うから。
・ソーシャルディスタンスなど，制約はあるがまちづくり活動自体がとても有効なものであると思うから。
・恒常的日常的活動行動。
・感染防止対策はもちろん必要だと思う。各施設も消毒など対策はしているので，半年以上も何もかも自粛するのは精神的にも経済的にも無理になっている。以前のように戻ることはできないかもしれないが，徐々にコロナに対応した生活になっていけば良いと思う。
・必要だとは思うが，やはりワクチンやその後の治療薬が出来れば，活発に動けるようになると思う。
・こういう時だからこそ力を入れた方が良いと思う。
・少しでも心が豊かになるといいから。

（情報収集）

・人に合わなくなる状況で地域の情報も必要。
・情報収集は必要だと思っているし，助け合いの精神も必要だと思う。
・**身近な情報を得られる場所として必要性を感じる**。
・自分の周りにどんな方が住んでおられるのか，知っておくことが重要だと思うようになった。

（予防対策）

・まち全体での予防対策。
・衛生面向上。

（経済の活性化）

・経済的な活性化が必要。
・経済的に売上が落ち込むなど影響はあると思うので活気を取り戻すためにも必要だと思う。

（その他）

・コロナで取組の意識が薄くなっているから。
・あまり外に出ない事を心がけた。
・コロナ禍でも何もかも無くすと寂しい。
・毎日は無理だろうが，一般市民参加なら，一応，首からぶら下げる，ネームプレートで，高知市か高知市役所と，書いたのをしないと警察や一般市民でも判るようにして欲しい。

【あまり必要と思わない】

（感染防止）

・クラスターの心配，またその場合の責任の所在や犯人探しのようなことになった場合，住民の交流どころか悪い影響しかないため。

・**コロナが少し落ち着くまで待つべき**。

・コロナが落ち着いてから活動すれば良いのではないかと思う。

・コロナ禍で不安を抱えたまま参加するのはどうかと思う。

・コロナ流行の収束を待ってから，活動をすればいいのではないかと思う。

・まず収束させることが先決だと思うから。

・まだ今は控えた方がイイと思う。

・もう少し先が見えてからの方がいいのでは？

・やはり密になるから。

・感染が怖いのであまり接触したくない。

・**感染リスクを考えるとそこまで必要であるか**。

・感染拡大予防が必要だから。

・感染対策が必須。

・今，色々な活動をする必要より，自分や家族を守りたい。

・今この時期にたくさんの人が集まることはないほうがいい

・今活動する時期ではないと思った。

・参加人数が増えるとコロナ感染の危険性が増すため。

・治療薬ができるまでは，感染を防ぐことしか出来ないと思う。

・人が集まるようなものはまだ避けるべきだと思う。

・人が集まる事で，コロナに感染する可能性があるから。

・人との接触に抵抗がある。

・正しい知識がない中でのまちづくりはコロナ感染を助長するので，関わるのが少し怖い。

・接触自体を防ぐことが重要なので。

・不要な外出を控える事も今は大切だと思う。

（まちづくり活動を知らない）

・コロナ禍だからといって，まちづくり活動が必要とは結びつかなかった。

・どのように影響が出るのかが分からない。

・よくわからない。

・**活動の内容がよくわからない**から。

・**今まで何をやっていたのか把握していないし，個人的にはあっても無くても変わりがなかった**ので。必要としている人がいるならあった方が良いとは思うが。

（その他）

・困りごとがなかったから。

・コロナ禍だからではなく，普段から活動はすべき。

・あまり関わりを持ちたくない。

【全く必要と思わない】

・コロナ渦の今は人との接触はできるだけ避けたいから，この状況の中では必要だとは思わない。

・コロナ禍になった今は特に人との関わりを控えるべきだと思うから。

・感染が懸念される間は休むのが正解。

・個人で，やれば良い事。

【わからない】

（まちづくり活動を知らない）

・**まちづくり活動の内容がわからない・知らない。**（19）

・行動自体が制限されているので，どのような方法があるのが知識不足で不明点が多い。

・コロナとまちづくり活動の因果関係がわからないため。

（まちづくり活動に参加したことがない）

・まちづくり活動に参加したことがないから。

・活動した事ないから。

・今までまちづくり活動に参加したことがないので何とも言えない。

・**日頃，まちづくり活動にあまり参加していないので，コロナで行動に制約がでても，ほとんど影響を感じない**。

（感染防止）

・コロナウイルスの脅威は計り知れない。

・コロナが落ち着くまでは自粛するべきかと…考える為。

・その活動するにあたってコロナ対策が十分にできているか考えなくてはならないから。

・いまのコロナの状況での，まちづくり活動は必要だとも思うけど，リスクも怖いし，結局必要なのかと問われると，わからないになってしまう。

・まだ高知でコロナ感染者が出てきている中，リスクを減らしたいものの，人とのつながりが減るのもいけない。

・コロナ流行が長く続きすぎているので，これ以上自粛するのはつらいが，活動の内容によっては今必要でないこともあると思う。

・出来ればあった方が良いが，感染との両立が必要でどうするのが良いか試行錯誤が必要。

・活動をする事により感染拡大につながる可能性はあると思う。しかし，活動をしない事により孤独になってしまう住民がいるかもしれないし何が正解かは分からない。

・必要だとも思うが命が１番で，難しくも思い，分からない。

・動くことはよくない。

・密になってはいけないのに，まちづくり活動は密になってしまう。

・落ち着いてからやればいい。

（その他）

・今までもあまり関心が無かったから。

・多少面倒なことがあってもある程度のつながりは必要だと思う。

・どちらにしても否定的な意見があると感じたから。

Q14 コロナ禍（とコロナ収束後）において，どうすればまちづくり活動に参加しやすくなるか。

（感染予防対策・三密回避（66））

・コロナ対策の徹底。（41）（三密回避・屋外開催・人数制限・時間制限・検温の実施・マスクの着用・事前予約など）
・コロナを普通の風邪・病気化するように情報を広げる。
・ソーシャルディスタンスやマスクの必須などコロナ禍で増えた新たなルールにもだいぶ慣れてきた頃だと思う。これまでと同様募集を促し，大人数にならない程度の参加人数であれば更に安心して活動に参加できるのではと思う。
・安全であることの周知。
・屋外で，少人数の，集まりを企画。大人数での開催が難しければ，回数を多くとるなど。また，高知のアクティビティや自然が多いところを生かした企画。
・感染予防対策を明確に参加者全てが情報開示出来る方を対象にする。
・「活動」がイベント等の大人数が集まるような物の場合は，参加人数の把握，制限をし，参加者は前以て PCR 等の検査を受けられるようにする。
・完璧な感染予防はないので，参加は個々人の考えに依存すると思う。気にしない人は参加するだろうし，気にする人はどんなに対策や説明をしても参加しないだろう。コロナが落ち着く，また対応薬やワクチンがしっかりと整備されることが必要不可欠ではないかと思う。
・人口の少ないところでの開催など。
・三密は必須。でもマスクで予防は気休め。どうすればいいのかと問われるなら実施しない方がリスクはなくなります。どうしても実施したい参加してもらいたいのならばキチンと対策していればやりたい人は自ずと集まるのではないか。
・高知県民に抗体検査をして，安全を測れば納得するのではないか。
・市民全員 100%の標準予防策の徹底。
・住民の感染予防意識の高まり。
・出来る限り人と直接会わないような活動に絞り，そのことをアピールする必要があると思う。
・例えば親睦などは**回数や人数を減らしたり，オンラインを活用したり，個人個人で参加できるような活動があればコロナ禍でも参加してみたいと思う**。
・他人と密にならない，や COCOA の全員登録必須，うつさない・うつらない，をしっかりしていることが明確なことだと思う。
・適度な距離を保ち人との交流を，楽しめるもの。お年寄りが安心し，人との関わりをオンラインではなく，直接関わる場所提供。
・徹底した自己管理に加えて，使う施設などの安全性。
・三密を回避しつつ，**出来る限りの予防をしながら色々な試みをして前進して行くことが必要だと思う**。
・密をさけ，マスク，手洗いの徹底は勿論，出来るだけ会わずに出来る方法はないか，人と会うのは必要最低限だと安心する。
・三密を控えるため，コロナの現状と感染対策を定期的に文章で配布する。
・どこも対策はしてくれていると思うので，もしコロナにかかってしまったらどうなるのか知っておくと少し安心できると思う。(例えば，CPR 検査できるのはどんな人？，判定がでるまでの期間は？，職場や家族はどう

したらよい？，陽性になったあと入院費用や生活費はどうなる？などと言ったこと。）
・三密を避けることが必要で，参加者には三密を避けるための，例えば清掃活動などの際には，マスクなどの配布や場所の設定の工夫が必要。
・たとえば　ラジオ体操は道具準備もそれ程かからないので　小規模でやれば密を避けながら運動不足の解消になり，安否確認もできる。
・小さなグループで，少人数で集まりを行うのはどうか?（役員や担当の方は必ず入るようにして。）
・早く治療薬を作ってください。
・ワクチンが皆に行き渡ってからなら。

（まちづくり活動に関する情報発信・周知（40））
・もっと細部にこだわったアピールが必要なのでは？あまり身近に感じない。**アクションを起こす程の情報を知らない。**
・TV ややラジオなど**目や耳に入る情報があれば，興味がわくかも。**
・あかるいまちなどに行事を掲載する。
・あかるいまちなどに参加できる勉強会やイベントがあればどんどん募集をかけてほしい。
・あかるいまちなどの広報誌や新聞などで，具体的な内容や活動がわかると良いと思う
・どのような活動があるのか，情報提供を増やし，**老若男女，日時等問わず参加できる活動を多くする**。
・情報をもっと多く発信する。
・どんなことをやっているのか存在を知らないことが多いのでもっとアピールした方がよいと思う。
・テレビや新聞，SNS などの発信。
・メディアの力を借りて，まちづくりに関した CM をもっとながせばいいと思う。
・活動についての情報提供を行う。
・何をやっているのかを把握していない人も多いと思うので←私含め活動の周知からかなぁと思う。
・回覧等で情報を共有する。
・回覧板での情報共有。
・回覧板や広報誌での呼びかけ。
・各世帯へ直接的な働きかけ，手紙等で呼びかける。
・やはり呼びかけじゃないか。
・**活動内容の詳細を知ることができるサービス。**
・活動情報の周知。
・どんな活動があるのかしっかり告知してみなさんに知ってもらう。
・**まちづくりの内容についての発信。**
・見守り地域の安全や，地域防災には興味があるので何か分かりやすく広告してくれれば参加してもいいかと思う。交流や親睦もコロナでなかったら深めたいけど，今は怖い。
・広報などでの情報発信。
・**参加者を SNS で募る，メールでお知らせしてもらうような登録システムを作る**，地域のコミュニティからの広報。
・情報が欲しい。

・情報をオープンにして広くて物理的にオープンな場所を確保する。
・情報を入手しやすく，**LINE 登録してお知らせしては**どうか。
・身近なまちづくり活動に関する情報が得られれば参加しやすくなるのではないか。
・**人によって出来る事はそれぞれ違うので，いろんな情報発信をして，周知してもらう事が大事**かと思う。
・積極的に PR してほしい。
・宣伝や口コミが効果的。
・土日の中央公園地下駐車の無料置き放題の措置は大変効果があると思うが，あまり周知されておらず残念。これから季節が良くなる中で，中央公園での距離を置くことができる食や音楽などのイベントに犬猫の譲渡会をセットにするなど，意味のある有意義な事に利用できれば素晴らしい。
・毎月発行している広報に載せる。
・ネットで PR 活動！**県外では県庁職員が YouTuber になって，PR 活動していた**。
・ホームページからで無く，Facebook などで，やる予定日，予定時間，集まる場所など投稿して欲しい。
・まちづくり活動というワードが抽象的すぎるかと。**具体的にイメージできる情報を提示していただけると良い**。
・まちづくり活動と言われても全く何をしているか不明。町内会活動も正直煩わしい。
・まちづくり活動について周知をもっとして欲しい。
・そもそもまちづくり活動かわからない。
・わかりやすくする。

（ICT の活用（22））

・リモート，ウェブ，オンライン，Zoom 等の活用，参加。（８）
・**市民がオンラインでつながりやすくなるとよい。**
・ICT 活用，行政，自治体のバックアップ。
・**オンラインが一つの手段だとは思うが，何らかの新しい形が必要と思われる。**
・オンラインで，まちの課題など話し合ってみるなどすれば参加しやすいのかなと思った。
・オンラインでの活動を可能とすること。
・**オンラインで交流したり話し合う場やそのような環境を整える**。
・オンラインなどで会議をするなど，できるだけ人と接触しないでできる状態を増やす。
・**オンラインのものや郵送でできるものなど対面せずにできる**こと。
・オンライン化してみる，より情報発信をする。デザイン性を高める。
・オンライン会議。出来ない人には資料配布。人数を減らして出来る事をする活動。
・オンライン等，議論する場所，型式等を考慮しないとならない。
・オンライン等でできたら安心だとは思う。
・感染防止のため会合等ができない現状なのだろうか？コミュニティはインターネットを介しても十分に形成できることは経験している。ただしそれはある程度同等の環境を持った人によるものなので，特に年配の方には負担が大きいと考える。**公共の施設にリモート環境を整備し，貸出・サポートをしてはどうか**。
・活動されている方々は，ご年配の方が多いと思うので，今はどういう風に参加すればいいのかさえわからない。ただ，趣味をかねてのオンライン交流なら参加したいと思う。

（実施方法や内容の工夫（10））

・意見を発言する場面のみにして頂けると嬉しい。

・私自身で考えると，近所の仲のいいおじさんおばさんに誘われると参加する。あとは**年代によって好む雰囲気が変わると思うので別々で開催する**。

・**子どもをもつ働く親の支援を強化**してもらうと助かる。子どもを預けられないし，仕事も休めない。

・子連れでも参加しやすい環境。

・わからないがとても勉強に成ると踏める活動デザインにすればいいのでは？

・あまり制限(時間，場所，人数，範囲日)をせずに，できるときにできることをすることが大切だと思う。

・できることをした際には大小関わらず，褒める(認める）システムが継続につながると思う。例として作業前作業後の写真を担当者に見せてご褒美シールを貰うなど。

・あまり縛りがない方がいい。人間関係や時間など気軽に参加出来るようになるといいと思う。

・「めんどくささ」を取り除くことが必要だと思う。例えば，拘束時間を「～時から～時まで」と指定するのではなく，開催時間を記載したうえで気軽に参加することが出来ることを示していけば，より参加しやすくなると思う。

・できる事をできるタイミングで，なら参加しやすい。

・わかりやすく，参加しやすい雰囲気，簡単にできることがあればいいと思う。

（地域内での連携・交流（８））

・近くの公園など，屋外の施設の清掃などを通じて，話すきっかけができると，参加しやすいと思う。

・近所とのつながりが出来てくれば参加しやすいのだろうけど，なかなか難しいのでは…。

・近所同士が声をかけて話のできる関係を作ることが大事だと思う。

・みんなが，連携して連絡をこまめにする。

・みんなもっと思いやる心を持つべきと思う。心無いコロナのへの偏見の数々を目にして，心が滅入ることが度々あった。

・高い思いやりの意識の向上。大人のより良い人格形成。

・普段からの付き合い。

・三密を回避しながら，お互いを尊重し大切にする心を持つと共に過剰な不安感を抱かない様にする。

（新たな仕組み・ルール作り（７））

・やり方を変えて対応するしかないと思う。

・まずはコロナ禍での市民の意見，アイデア，要望を聞く事が大事。その上で計画するべき。

・リモートとかいろいろな方法があると思う。けれど，**高齢者や障がい者，子ども，それぞれの立場でも参加しやすい活動があればいい**なと思う。それが意外と難しいのだと思うが。

・ルールを明確にし，参加する人がみな気持ちよく活動できる仕組みを考えること。ルールが曖昧では，憶測などを呼び，活動に支障がでると考える。

・まちづくりはいつの時代でも必要とされるものだと思う。コロナ禍でも，with コロナと言われるように，これからはこれを念頭に置いて生活しないといけないので，**今までとは違う人との距離・付き合い方・食事の仕方も全てにおいて新しいまちづくりとして，スタートするべきだと思う**。

・参加するためのルール作り厳守する。
・三密を避ける，自粛の意識が埋め込まれ，活動する事への意欲が失せている。よって，まちづくり活動を交代制にするなど，必要性を感じさせるといいと思う。

（きっかけづくり（３））
・まちづくり活動に関する情報に触れて興味関心をもつこと。
・難しい問題，個人がまちづくりに関心を持てるような施策が必要。
・**参加できるきっかけを増やす**。

（規制の緩和（３））
・規制を緩和する。
・高知県ではマスク着用を解除する。すでに国外では解除されている。そして，普通にしているのが良い。
・催しものが例年どおり開催されれば参加しやすい。

（分からない（９））
・わからない。わからないが必要だと思う。
・分からない。（６）
・特になし。
・難しい～。

（その他）
・ボランティア。
・ボランティアでは無理があると思う。
・コロナによって，仕事がなくなった人，ホームレスになってしまった人（NHK で高知市内のホームレスの特集をしていた）の力になることが最優先ではないか？
・発病すれば活動自主辞退。警察自警団消防。
・町内会を利用するのはどうですか。
・必要以上にコロナウイルスを警戒しないこと。
・ある程度の強制。
・**会社などへの参加要望**。

（必要性を感じない（16））
・このような状況でする必要性が見出せない。
・コロナが収束してからだと思う。
・コロナが落ち着かないと無理。
・コロナ禍では，難しいと思う。
・丁寧にやりたいのなら，もう少し感染が落ち着くまでやらないほうがいい。
・どんなに予防を頑張っていても感染は逃れる事は出来ないと思う。参加しやすくなると言う事は今のところ不

可能だと思う。
・もう少し落ち着くまでは活動を自粛するべきでは…。
・今は仕方がないとは思っている。
・三密を避けられない点で，なかなか難しいと思う。
・参加しやすくはならないので，個人の判断になると思う。
・終息するまで休みましょう！どうして今やろうとするのか理解できない。
・生活する上でまちづくり活動はある程度必要だと思うが，コロナ禍では今までと同じような活動はできないと思う。
・必要なし。
・妙案はないと思う。
・無理に参加活動を啓蒙する必要はないかと思う。
・**自分自身がまちづくり活動に興味がなく…。コロナ禍と関係なく参加はしないと思う**。

Q15　その他まちづくり活動へのご意見など自由に記入

（要望）
・毎月発行している広報に載せる。
・あかるいまちへ活動報告や，関心のある方向けに募集をしたらいいと思う。
・**アプリを使ったりして街中の修理が必要なとこ，掃除が必要なとこなど改善した方がいいところを市民のみんなに気軽に投稿してもらうようなものがあれば**いいなと思う。
・うちの子は英語を話せるようになるが…子どもが外人さんの観光案内できるような場所やイベントが有ればいいが。
・この状況がいつまで続くか分からないので，外で食べる場所を増やしたりしたらどうか。
・コロナ禍でのまちづくり活動を知らなくてすみません。検索して確認してみる。各地域・地区などがどんな活動をしているかなどの情報が市のサイトから確認できるとありがたい。年配の方などは紙媒体がいいだろうが若い方などは，携帯での情報収集が多いと思うので。
・どこでどういった活動があるのか，集合住宅にいると，余計に分かりにくい。地域の防災訓練ですら，回覧板も回ってこないのでわからない。
・どんな活動があるのか，テレビで呼び掛けるなど，広報する必要がある。
・どんな活動があるのかもっとわかるようにしてほしい。
・**パソコンやスマホを使ってお互いの顔を見ながら話ができるような環境の充実を整えてほしい**。（高齢者にも使える，簡単，安価な）
・**まちづくり活動によってどんな将来になるのか，希望を感じたビジョンが共有できれば**参加者も増えると思う。
・まちづくり活動自体このアンケートで知った。もっと広報活動してほしい。
・まちづくり活動自体知らないので，その情報を広めることも重要かと思う。
・活動内容を分かりやすいよう知らせてほしい。
・公園を数多く作って欲しい。既存の公園を整備して欲しい。
・転勤族も自然と溶け込めるようなイベントをしてほしい。

（自由意見）

・アンケートを受けさせて頂くまで,「まちづくり活動」自体に関心や興味がありませんでしたが，気をつけて情報を得るように心がけたい。時節柄，多人数が集まる行動自体が制限を受けるので，プランや形式を考えないといけない。

・コロナ禍で大人も子どもも，**ソーシャルディスタンスをとることで，心の距離も離れていては元気がなくなるので，こんなときこそ，笑顔がでるような「まちづくり活動」は必要だと思う**。

・コロナ禍にでも出来る活動はあると思うので，少しずつでも続ける事が大事だと思う。何もなくなってしまうと地域のコミュニケーションや助け合いもなくなってしまうし，ストレスもたまると思うので，小規模な活動やイベントはやるべきだと思う。

・まちづくり活動，としてこれまであまり意識したことがなかった。情報が入ってこなかったり，参加のきっかけもないなぁと思う。アンテナを張ってみようと思う。

・まちづくり活動がどんなものか漠然としているので，そこから調べてみたいと思う。

・**まちづくりといってもそんなに難しいものじゃ無いよと言う理解が広まればいい**と思う。

・まちづくり活動に尽力をつくしている方々には感謝している。

・まちづくり活動の必要性は理解できるが，その前に近所付き合い，近隣の方々とのコミュニケーションを深めることも必要と考える。最近は近所付き合いも少ないのが現状のよう。

・まちづくり活動自体がよく分からない。

・なくなって改めて幸せだったと思う。

・もう少しコロナに対しての明確な対応が分かれば参加したい。

・一人一人がキレイなまちづくりを心がけてもらいましょう。最近，残念なことに道路にゴミなど捨てられている。みんなの街である意識を持ってもらいたい。

・介護職や保育士等，コロナ禍においても通常業務を遂行されている方々の待遇を改善されないままでは，離職が進む恐れがある。益々人手不足となり，地域社会の豊かな人間関係の構築が更に困難になるのではないか。

・活動の情報が入ってこないので，どのような活動がなされているかわからない。興味はあるので今後積極的に参加していきたい。

・**決まった人ばかりがしているから，やる気はない**。

・**健常者の目線，障がい者の目線，子どもの目線，青年の目線，大人の目線とたくさんの人が参加出来るような(具体的にまだ思いつきませんが)活動が出来ればと思う。**

・交流があれば，地震などが起きたときにもっと助けあえるのではないかと思う。もっと地域の方たちと交流を図りたいと思う。夜，地震になったときどこに逃げればいいかわからない。そんな訓練もあればいいのになと思う。

・高知県は自然豊かで，県民がそれを上手におしゃれに自由に楽しんでいるところが魅力と思う。

・子育て中の親子も参加しやすい場所などの情報発信が最近ココハレでされているが，わかりやすくまとめられている。これを見ればだいたいのイベントがわかる，というようなサイトがあれば選んで行きやすいのでは？

・高齢化社会になり，昭和の時代のようには近所付き合いもいかないと思うが，顔もわからない人が隣にいるような状況は避けたいですね！ただ，コロナが終息しないと動けないのも事実。

・今は色々できないが，規模は小さくても続けていかなければいけない。

・今までも誰かがしてきた，そして今も誰かがしている。これからも誰かがするというサイクルを認識させて「自

分はしたくない」という全否定ではなく，「やってくれている人ありがとう」の気持ちを育てることが，将来への種まきにつながると思う。

・今後，自分にも出来そうな活動があれば，積極的に参加したいと思う。

・**参加したくない人も含めてまちづくりだと思う**ので，積極的な参加を強制するのではなく，情報は提供するようにしてほしい。

・参加する人はいつも同じで，どうしたら多くの人に関心を持ってもらえるかが課題だと思う。

・仕事が減り生活にゆとりが無くなったが，何が大事かという見方がすごく変わった。何か自分にもできることがあれば積極的に参加したいと思う。

・子どもから高齢者まで，勿論男性，女性問わず広い視点で関われることが大切。

・私は，20 代の学生だが，実際に 20 代だからこそ思うことがある。今の若者は，きっと「めんどくさいこと」に極力関わりたくないと思っている人が多くいる。特に**「まちづくり活動」や「ボランティア」などの言葉を聞くと，めんどくさそうだと思い，嫌煙しがち。一方で，「まちづくり」は，きっと堅苦しいものではなく，様々な形で活動が展開されているのだろうと推測できる。**（例えば，「気が向いたから子ども食堂へ行き，地元の子どもたちやご老人とお話しする」というのも，一種のまちづくり活動。）

・周りに基礎疾患がある人や高齢者を抱えていて，絶対に罹患しない，ウイルスを持ち込めない人がいることに気がついていない人が多すぎる。他人に移す可能性を考えていない人があまりにも多い。このような価値観，生活観が異なる人が一緒にまちづくりできると思うのがおかしい。休みましょう。

・住環境整備など，必ずしも密を要しない活動もある。できることや必要な活動を続けることにより地域コミュニティの維持を図る必要がある。

・小学校から，強制的にでも**ボランティアやその方面についての道徳教育をする。そういうクラブを学校内に作る。**他人のために貢献した結果の出せた生徒には大掛かりな表彰状や奨学金をあたえる。小さい頃から意識を高める様にする。

・少しずつの規模で活動があれば１人でも参加しやすいと思う。

・人のつながりをどのように作っていくのか。**マルナカのサービス事業**「紡（つむぎ）」（５５歳以上の会員を対象に，体操や学び，遊びの教室を毎日開き，憩いや交流の場を提供する…）のような，交流の場を増やすことが必要ではないかと思う。55 歳に限定せず，例えば，幼稚園の子ども学童保育の子どもと中高年とか…。

・世界中で言える事だが，今までが過剰だったと思う。溢れ返る品物，売れ残って捨てられる洋服や食べ物，分刻みで運行される公共交通，コロナを機に人々が働き方を変え，日常生活でも効率を求めるばかりではなく，少しの不便を受け入れ丁寧な暮らしを考えてみてもよいのかもしれない。

・他の地域で，どのような工夫があるのかを参考に話を聞いてみること。参加するもとたちは，ルールに同意のもとで活動するので価値観の共有で活動がスムーズになると思う。

・誰でも気軽に参加出来る，ハードルが低いモノを沢山開催すると，興味ある人が参加し易くなると思う。

・地域活動に接していない方は，何をしているか情報が全く入ってこないと思われる。(いつ清掃活動をしているか等)

・町がどう変わらなくてはならないか，大変興味がある。

・**町内のサロンの様な活動があれば，色々な災害が起きた時や避難所の運営等がスムーズに運ぶと思う**。しかし実際には自分の町内での親睦を図る活動は全く無い。

・町内会の班長(連続)８年目ですが，保育園が休みの日は，保育園児の孫３人(５歳，３歳，もうすぐ１歳)を預

かっているので，なかなか活動に参加できず，ご迷惑をおかけしている…できる範囲で，一生懸命参加している。私の事情をご存知で，助けてくださる町内会長様を始め，役員の皆様，班の皆様に感謝!!

・転勤族で県外から引っ越してきて，まちづくり活動に今まで関心がなく見てこなかったが，もう少し情報収集してみてもいいかなーと思った。

・冬に向けて尚一層の厳格な約束事を決めて活動すれば，今までとは違うまちづくり活動への参加は出来ると思う。

・**年配の方達だけのコミュニティのような印象もあり，入りにくい活動だと言う認識だったが，天災やコロナ渦など先が見えにくい世の中になっており，自分の住むまちづくりに意識的に参加しないといけないと言う考えが生まれてきている**。幅広い年代の人達と共に，自分たちの住む町を住みやすく安全な町にしたい。

・本アンケートを受けて「まちづくり活動」を検索し，主に高知市のホームページを拝見したが，それでもどんな活動なのかわかりにくく，自分にどんなことができるのかイメージができない。子どもの成長に手助けとなるようなことに関心があり，一緒に参加できる活動があれば検討したいと思う。

・あまり活動の内容に詳しくないので特になし。

・特にありません

・特になし。

・コロナ禍のいま，無理にイベントや地域活動をする必要はないと思う。まちづくり活動というのがいまいちピンときていないが，必要最低限で良いのでは。

・コロナ禍の不安がなくなり，みんなが安心と思えるようになったら活動を始めたら良いと思う。

・従来と同じ活動を，コロナ禍の状況で行うのは，活動の内容(親睦や，関心のある人の集まりなど)からしても，難しいと思う。

Ⅱ　高知市市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例見守り委員会
第９期（前期：令和２年５月１日～令和３年４月 30 日）審議過程

委員会等（開催日）	概　要
第１回見守り委員会 （令和２年６月 28 日）	・委員委嘱 ・見守り委員会の役割，これまでの経過説明 ・第９期見守り委員会での審議内容についての検討
第２回見守り委員会 （令和２年 10 月５日）	・「市民活動・地域活動がコロナの苦境を乗り越えるために何が必要か」「with コロナ・after コロナでの市民活動・地域活動の新しい姿」について意見交換
第３回見守り委員会 （令和２年 12 月７日）	・パートナーシップの視点から，どのような制度や取組，支援等が必要かについて意見交換
第１回編集委員会 （令和３年２月３日）	・報告書内容についての検討
第２回編集委員会 （令和３年２月 15 日）	・報告書内容についての検討
第４回見守り委員会 （令和３年３月 10 日）	・報告書内容についての検討
第３回編集委員会 （令和３年３月 24 日）	・報告書内容についての確認

Ⅲ　高知市市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例見守り委員会
第９期委員名簿

氏　名	所　属　等	区　分	備　考
大槻　知史	高知大学地域協働学部准教授	学識経験者	委員長 （編集委員）
増田　和剛	まちづくりファンド運営委員会委員長	学識経験者	副委員長 （編集委員）
宇都宮　千穂	高知県立大学文化学部准教授	学識経験者	（編集委員）
大﨑　博士	公募委員	公募	
大西　信子	公募委員	公募	
片岡　達哉	横浜新町まちづくり市民会議代表幹事	市民活動	
兼松　方彦	物部川 21 世紀の森と水の会事務局長	市民活動	
北川　力	ＮＰＯ高知市民会議理事	市民活動	
都築　ゆみ	初月まちづくり連携活動協議会 事務局・会計	市民活動	
長尾　達雄	高知市町内会連合会会長	市民活動	
中野　和代	潮江東小学校区地域内連携協議会 （通称：ひがし連携）理事	市民活動	
野村　ゆかり	公募委員	公募	（編集委員）
間﨑　美賀	高知市まちづくり未来塾書記	市民活動	
山﨑　水紀夫	ＮＰＯ高知市民会議理事	市民活動	（編集委員）